

平成28年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

多文化社会に生きるリージョナル（地域の）リーダーからグローバルリーダーの育成へ。

- 1 学ぶ力をつける……生徒の学ぶ意欲を向上させて確かな学力を身につける。
- 2 人間力をつける……知・徳・体のバランスのとれた人間性を育み、人間力をつける。
- 3 地域から信頼される学校をつくり、高い志と夢を持ったグローバルリーダーを育成する。
- 4 学校の組織力の向上と活性化

2 中期的目標

多文化社会に生きるリージョナル（地域の）リーダーからグローバルリーダーの育成のために

1. 学ぶ力をつける

- (1) 生徒の学ぶ意欲を向上させ確かな学力を身につけるために、正課授業の集中度を高め、生徒の授業満足度が高い授業が行えるように全教員の授業力の向上を組織的に取り組む。
- (2) 大職員室を活用し、訪れた生徒が目的教科以外の教員の指導も受けやすい環境をつくる。
- (3) 3年間を見通した学習指導計画、進路指導計画を今一度構築し、生徒の学習意欲、進路意欲の向上を図り、生徒の第一希望の進路実現に繋げる。
- (4) 基礎的学力の強化 平成26年度から導入した朝学（総合基礎）の更なる充実を図り、基礎的・基本的な学力の確実な定着充実を努める。また、1学期終了段階で各教科のやり直し補講等を行い、2学期以降の随時・個別の指導や生徒の家庭学習活動を支援・強化する。
- (5) 放課後講習の組織化と拡大
自習室を整備したことを踏まえ、放課後講習の組織化を進め放課後の学習機会を確保・拡大していく。
- (6) 長期休業期間講習の実施。
- (7) 平成27年度入学生から専門コース（グローバルスタディコミュニケーションコース [文系] とグローバルスタディサイエンスコース [理系]）制を導入することにより、コース生はもちろん、コース生以外の生徒の学力の更なる効果的な向上を図り、国公立大学や「関関同立」など難関私大への進路希望の実現に寄与し、国公立50名以上「関関同立」250名以上の合格を目標とする。
- (8) 平成27年度「学校経営推進費」により導入した、ICT機器である電子黒板とタブレット型端末を有効に使用することで、「よりわかりやすい授業」を行い生徒の学力（特に、英語を中心としたコミュニケーション能力）の向上に資する。また、外部講師による希望生徒向け英検対策講座を導入することで、より英語の力を向上させる。
- (9) 平成27年度に策定した「桜塚教科スタンダード」の実現を目標に教科指導に取り組み、今後毎年ブラッシュアップを重ねていくことを組織目標とする。

※ 学校教育自己診断における生徒向け設問「授業はわかりやすい」に対する肯定的評価の75%を更に向上させ今年度には80%を維持する。

2. 人間力をつける

- (1) 人間関係構築の第一歩として、あいさつがさらにしっかりと行われる学校をめざし、「あいさつ運動」を実施すると共に遅刻数を減少させる。
- (2) 教育相談体制の充実。「生徒一人ひとりを大切に」本校の教育を推進し、カウンセリングマインドを取り入れた指導を組織的にを行い生徒相談機能を高める。
- (3) 正課授業や部活動その他の機会において地域連携・地域貢献活動・国際交流活動を行うことで異世代・異文化との交流に生徒が参画し、教員は活動を支援・促進する。
- (4) 部活動を通じて生徒に達成感や自尊感情を育む。
- (5) 全・定併置校の特色を活かし、互いの協力関係を密にし更に有効有意な関係を構築する。
- (6) (5)の進展に合わせて、自治会活動の全・定連携をめざし、全定生徒の交流行事等を立案実施する。

※学校教育自己診断におけるそれぞれの評価活動を点検し、生徒の人間力を高める計画の立案と実行を図る。
(進路相談・教育相談への生徒評価及び自分の成長を実感する項目で、5%上昇をめざす)

3. 地域の信頼される学校としての桜塚を促進・広報する

- (1) オール桜塚の体制でOB、地域の有志と連携した事業を展開する。
- (2) 多文化社会を実感・体験するため国際理解教育や人権教育活動への積極的な参画を促進する。
- (3) 豊中市役所をはじめとする公的機関、大学、各種団体との連携をさらに充実させ、生徒の社会的経験知の向上を図り、進路実現に寄与するキャリア教育にも繋げる。
- (4) 平成24年度に岩手県立大槌高等学校と締結した「さくら協定」に係る事業を発展させ、東日本大震災の被災地に寄り添い連携する態度のさらなる涵養を図り、持続的な支援や交流を行う。
- (5) 広報活動を充実させる。HPを更に見やすく、魅力的なものにし、更新を頻繁に行う。また、中学校訪問や学校説明会等を開催して広報活動を積極的に行う。

※学校教育自己診断において生徒の自己評価の低かった地域活動をさらに周知し、生徒の力に替え、地域の信頼の一層の獲得を図る。現在の70%を維持する。

4. グローバルリーダーの育成

- (1) 上記3を基本に国際社会で通用する人材を育成するため、地域の伝統や文化に対する理解はもとより、異文化や習慣の違いを尊重する精神を育む為に国際交流を積極的に進める。世界の様々な国からの長期、短期の留学生を積極的に受け入れる。
- (2) 国際的なコミュニケーション能力を育成するために、国際的共通語としての英語のコミュニケーション能力の育成に努める。その為に、海外語学研修、国際交流に努め生徒の国際的な視野を育むとともに、授業に言語活動を積極的に取り入れ、英検やTOEFL等の資格取得を進めることに取り組む。
- (3) 「めざす学校像」を実現させる為に、平成27年度入学生から専門コース制を導入することにより、より英語や理数系科目を強化し、高い志と夢を持ったグローバルリーダーを育成する。

※今年度以降も英語圏への海外語学研修を継続して実施し、アジア圏への異文化研修も積極的に実施する。修学旅行も可能な限り海外に行くことをすすめる。

5. 学校の組織力の向上と活性化

- (1) PDCAサイクルにより学校経営を確立し、組織力の向上を図り、学校運営における組織的な取り組みを更に進める。
 - ア 運営委員会のメンバーはそれぞれの所管する組織の立場にこだわらず、常に学校全体の立場から意見交換を行い、本校の課題に対する基本的な方向性を確立することに寄与する。
 - イ 「学校組織運営に関する指針」に基づく学校運営を行うために、学校運営の基盤となる種々の内規等の整理・改善を行う。
 - ウ 平成27年度入学生から専門コースを設置した。今後、コース制PTや運営委員会等を中心に専門コースの更なる充実・改善を図る。
 - エ 様々な分掌・委員会の活性化に努め、活動を活発に行う。学校の様々な状況によっては、必要に応じてスクラップ・アンド・ビルドする。

※内規等諸規定の整理と改善を行う。
※専門コースに新しく設置する専門教科・科目の研究を深め、シラバスの更なる充実を努める。

6. 不祥事発生の未然防止を図るために、一層の取り組みを進める。

- (1) 不祥事防止に関する校内研修を実施し、問題意識を共有する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【総括】 保護者、生徒とも全部の質問項目で肯定的回答が否定的回答を上回った。また、学校に対する総体的印象を聞く質問である「子どもは学校に行くのを楽しみにしている（保護者）」は 90%、「桜塚高校は楽しい（生徒）」は 85%といずれも高い値を維持した。</p> <p>【学習指導】 ・「授業はわかりやすい（生徒）」が 76%、「子どもは授業がわかりやすいと言っている（保護者）」が 75%であった。「アクティブラーニング型の学習指導を取り入れている（教職員）」は 75%となり、生徒の授業理解のため教員は努力を重ねている。授業力のさらなる向上が必要である。 ・今年度も 5 月と 11 月を「授業改善月間」と称し、教員による相互授業見学や研究授業を行った結果「他の先生が授業を見学に来ることがある」は 85%となった。全教員が自教科と他教科の授業を見学し、見学対象の教員と授業について意見交換を行った。また授業アンケート結果を踏まえた教科・学年別の協議を行い、教科ごとに授業改善の方法について検討して、今年度より運用している授業における「桜塚スタンダード」のブラッシュアップを図り、全校で共有した。 ・「授業などでコンピュータやプロジェクターを活用している」は 83%であった。ICT 機器の活用に習熟している教員もいるが、不慣れな教員もいるので、教員同士の教えあいを進め、全ての教員が ICT 機器の活用に習熟するようにしていく。それと共に、ICT 機器の活用のみ依存する授業となると生徒の理解の妨げとなるので、バランスのとれた授業での活用方法を研究し、教員相互でそのノウハウや情報を共有する必要がある。</p> <p>【生徒指導】 ・「生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている（生徒）」の肯定的回答は 75%であり、生徒は自主的に規律を遵守しようとする意識が高いといえるが、さらなる意識の向上を図る必要がある。 ・「桜塚高校の生徒指導の方針には共感できる（保護者）」は 84%で、生徒が「厳しい」と感じる指導も、保護者の視点においては必要であると理解を得ている。</p> <p>【進路指導】 ・「将来の進路や生き方について考える機会がある（生徒）」は 80%、「桜塚高校は将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている（保護者）」が 77%であった。大学受験だけでなく、その先の人生も含めた「キャリア教育」の指導を充実させる必要がある。</p> <p>【地域連携等】 ・豊中市や岡町商店街との各種連携事業や東日本大震災の被災地支援ボランティアで始まった岩手県立大槌高等学校との交流について、肯定的評価は生徒 74%、保護者 86%、教職員 97%であった。自治会生徒が中心になり、熊本地震の際には募金活動も行ったが、生徒の意識と保護者、教職員の意識に差が出た。自分の学校が地域へ貢献し、被災地を支援することは生徒の自尊感情を高めることにつながるため、全校生徒が事業や交流に関わるプログラムを設定するとともに、それらの活動を他の生徒にも伝えて、学校全体で「地域とつながり被災地とともに歩む学校」とする意識を持つ必要がある。</p> <p>【情報提供】 ・「桜塚高校は、進路に関する情報提供に努力している（保護者）」は 78%、「桜塚高校の『ケータイ連絡網』によるメール発信を知っている」は 94%、「教育活動に必要な情報について、生徒・保護者や地域への周知に努めている（教職員）」は 88%であった。概ね適切に情報提供を行っているとして評価されたが、進路の情報提供の頻度や方法についてはさらなる工夫が必要である。</p> <p>【学校運営】 ・「学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている」が 81%、「学校内で他の教員の授業を見学する機会がある」が 95%であり、教職員は協働して業務を進めている。 ・「PDCA サイクルによる学校経営を推進している」は 63%、「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」は 56%であり、共に十分とはいえない。経営手法である PDCA についての教職員の理解を更にすすめると共に、今年度から運用している授業における「桜塚教科スタンダード」のブラッシュアップを通じて教職員の意識の変革を図っていく。 ・「勤務についての職員研修を班別のワークショップ形式で実施した。」「教職員の勤務規律への自覚が高い」は 85%であり、勤務規律に対する意識は高いことがわかるが、目標としては 100%を達成すべきところである。</p>	<p>【第 1 回（7 月 11 日）】 ○平成 28 年度学校経営計画について ・関関同立の現役合格者数が過去最高であったこと、また、関西大学の合格者数が全国 7 位であったことを評価する。 ・本校生徒の潜在応力は高いと思うので、国公立大学合格の実績向上により一層励んでもらいたい。 ・アクティブラーニングの推進に期待する。中学校と高校双方で win-win となる連携を行いたい。 ・プロジェクトラーニング的な学びは地域の活性化に通じるものがある。高校生のアイデアや関わりが欲しい。 ・遅刻数の減少により一層取り組んでいただきたい。 ・小中高が密度高く集まっているのは珍しい。そのおかげで、小学生と高校生でタグラグビーを実施できているし、「3 中フェスタ」や「すこやかネット」にも軽音楽部やダンス部、箏曲部等の参加をいただいております、ありがたい。</p> <p>○生徒の状況に対して ・登下校時の交通マナーについて近隣の中学生や小学生、幼児といった子どもたちのお手本となるべく、さらなる啓発を行ってほしい。</p> <p>○主権者教育の実施について ・豊中市商工会議所と連携した模擬授業を活用されたい。 ・学校の隣にある豊中市議会の見学が主権者意識の涵養に資するので、実施することを勧める。</p> <p>【第 2 回（11 月 29 日）】 ○授業見学感想 ・電子黒板を活用したアクティブラーニング型の授業はプロデュース力が問われる。先生方にはより一層研究を進めてほしい。 ・PISA2015 の結果が近日発表されるが、学力のグローバル化に取り組んでほしい。</p> <p>○文化祭について ・日曜開催により 3100 人の入場者で賑わったことは地域に開かれた学校である証と考える。</p> <p>○学校説明会及び授業公開について ・いずれも多数の参加があったことは桜塚高校への期待の表れである。</p> <p>○修学旅行の行先変更について ・テロ事件の発生を受けてのことなので、やむを得ないと考える。次の行先への準備を万端にするとともに、生徒、保護者への説明を丁寧に行っていただきたい。</p> <p>○80 周年記念事業に係る取組について ・軽音楽部が作詞作曲演奏したテーマソングは素晴らしい。You Tube に公開された動画も完成度が高い。</p> <p>○生徒状況について ・引き続き遅刻者数の縮減、不登校生徒への支援に取り組んでいただきたい。 ・大阪教育大学との府立高校教職コンソーシアムにて、作文コンクールで本校生が最優秀賞を獲得したことを評価する。</p> <p>【第 3 回（2 月 13 日）】 ○平成 28 年度学校評価について ・学校教育自己診断「授業はわかりやすい（生徒）」の結果が 76%を超えたことを評価する。 ・アクティブラーニング型授業をする教員としない教員で生徒の理解度の差がでないようにしていただきたい。 ・ICT 機器を使用する授業を全員の教員に義務付けるのではなく、生徒が授業をわかりやすくなる為にはどうしたらいいかという判断で各先生方に委ねていることを評価する。ICT 機器を各教室に完備されたが、教え方を画一的にそして管理的にしていないことを評価する。 ・桜塚教科スタンダードを見られるようにして頂きたい。</p> <p>○平成 29 年度学校経営計画（案）について ・次年度から導入予定の「学習確認カード」により担任と部活動顧問がより一層連携を密に行うことで、生徒の自宅学習時間が向上することを期待したい。 ・部活動が盛んであるので、学習との両立を効果的に図っていただきたい。 ・先生方の部活動顧問の付添が長時間にならないように配慮頂きたい。 ・遅刻数の減少に関して、今年度の取組を評価すると共に、次年度更なる向上を期待したい。 ・不登校生徒への支援を評価するが、今後も教職員の連携を深め継続して行っていただきたい。 ・修学旅行や海外研修時に訪問する現地交流校との事前交流について積極的に行われることにより、より一層国際理解が深まることを期待している。</p> <p>○今年度の海外語学研修について ・アメリカ、カリフォルニア州サンマテオ市と姉妹都市である豊中市はなかなか交流ができていない現状であるが、桜塚高校が交流を継続して頂いているのでありがたいと感謝している。引き続きよろしくお願ひしたい。</p>

府立桜塚高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学 ぶ 力	(1) 授業力の向上 ア 授業改善のための諸施策を行う イ 総合基礎(朝学)の充実 ウ 桜塚教科スタンダードの実施 エ 専門コースの充実	ア 「授業力向上等検討委員会」で、研究授業(電子黒板等 ICT 機器を取り入れた研究授業も含む)や教員相互の授業見学等の実施計画等を作り実施する。 ・電子黒板やタブレット型端末等 ICT 機器を有効に使用することで、「よりわかりやすい授業」を行い生徒の学力(特に、英語を中心としたコミュニケーション能力)の向上に資する。 ・授業アンケートの1回目を課題把握、2回目を成果検証と位置づけ授業改善を推進する。また、結果に基づき各教科等でも改善策等を協議する。 イ 実施後2年間の結果に基づき、更に学校をあげて組織的に取り組み、基礎的・基本的な学力の確実な定着充実に努める。 ウ 平成27年度に策定した「桜塚教科スタンダード」の実現に取り組む。 エ 専門コースが学校全体を牽引し、学力の更なる効果的な向上を図る。1年次に勉強合宿を実施するとともに各教科の放課後講習等を充実させる。 ・夏季や冬季の長期休業時にも講習を組織的に計画し実施する。	ア 生徒向け学校教育自己診断結果における授業満足度4項目平均で3%向上(平成27年度63%) ・同上(平成27年度63%) ・授業アンケートの1回目と2回目の比較において全項目での上昇 イ 英検・漢検等の資格取得者数と英語能力判定テストや確認テスト等での向上 ウ 各教科の評価指標の達成状況による エ 生徒アンケートを実施(満足度85%以上を維持) ・センター試験の出願者数の向上	ア 生徒向け学校教育自己診断結果における授業満足度4項目平均で9%向上し72.2%。昨年度は数値が低下したが、生徒の授業理解のため教員は様々な努力を重ねている成果が出ている。来年度は更なる授業力の向上をめざしたい。(◎) ・生徒向け学校教育自己診断結果における授業満足度4項目平均で9%向上し72.2%(◎) ・2回目の授業アンケート結果が1回目に比べて9項目中7項目で上昇し、1項目は同じであった。特に、「教材活用」や「授業分析」の2項目の向上が顕著(+0.05と+0.04)であり、教員の努力の結果であると感ぜられる。(◎) イ 資格取得者は英検準2級以上334名で前年度(224名)比約46%増で約1.49倍である。漢検準2級以上58名が取得している。英語能力判定テストについては、昨年度に比して1年生+22点、2年生+3.5点、3年生+17.4点向上している。(◎) ウ 現在、各教科の総括の提出を待っている段階である。(3月15日締切) エ 生徒アンケートの結果肯定的評価88%。(◎) ・講習参加生徒の肯定的評価は90%以上。センター試験の出願者数は前年度比-18名であったが、英語や世界史等で平均点が増加(◎)
2 人 間 力	(1) 人間力をつける ア 「あいさつ運動」の推進及び地域貢献活動等への参画 イ 遅刻数の減少 ウ 教育相談体制の充実 エ 部活動の充実 オ 定時制との関係の充実	ア 学校全体でさらにあいさつが活発になされるよう、啓発を推進する。また、様々な機会を捉えて地域貢献活動等に積極的に参加する。 イ 時間を順守することの大切さを再確認する。 ウ 「生徒一人ひとりを大切に」本校の教育を推進し、生徒相談機能を高める。 ・きめ細かく丁寧でカウンセリングマインドを取り入れた指導を組織的に行う。 エ 部活動を通じて生徒に達成感や自尊感情を育む。 オ 教職員が協力することで同じ施設を共有する仲間意識や互いを思いやりあう意識を養っていく。 ・例えば、全定相互の授業見学や共同の消火訓練等の実施。また、自治会活動の全定連携も視野に入れ、全定生徒の交流行事等も検討する。	ア 学校教育自己診断結果における関連項目での肯定率3%向上(平成27年度62%) イ 前年度遅刻数の2割減 ウ 学校教育自己診断結果における関連2項目での肯定率平均3%向上(平成27年度51%) エ 教職員向け学校教育自己診断関連項目72%以上(平成27年度72%) オ 教職員向け学校教育自己診断に定時制との関係に関する質問を設け、肯定的回答50%以上をめざす。(平成27年度44%)	ア 生活指導部や自治会の先生方や自治会執行部の生徒達が「あいさつ運動」を展開してくれており、学校教育自己診断結果における関連項目での肯定的評価73%で11%向上。外来者からの高評価は今年も継続している。あいさつ溢れる学校である。(◎) イ 遅刻数は昨年度比約13%の減である。(○) ウ 学校教育自己診断結果における関連項目での肯定的評価56%で5%向上。(○) エ 今年も、ダンス部や軽音楽部が連続して全国大会に出場しており、多くのクラブが活発に活動を行って成果を出している。教職員向け学校教育自己診断関連項目肯定的評価98.3%で26.3%向上。(◎) オ 今年度は全定生徒による交流行事を行うこともできた。教職員向け学校教育自己診断関連項目、肯定的評価51%で7%向上。(◎)
3 地 域 連 携 と グ ロ ー バ ル リ ー ダ ー の 育 成	(1) 多文化社会に生きるグローバルリーダーの育成のために ア 国際理解と人権に係る豊中市各機関との連携 イ 大学等との連携 ウ オール桜塚による支援 (2) グローバルリーダーの育成 (3) 広報活動の充実	(1) ア 多文化社会に生きる力を育成する為に、豊中市等との連携を深め国際理解教育や人権教育活動への積極的な参画を推進する。 ・豊中市各部署、社会福祉協議会、国際交流協会等、豊中市各機関との連携事業を引続き推進する。 イ 大阪音楽大学との提携活動の継続発展 ・大阪大学、関西大学との連携活動の継続 ・キャリア教育と進路実現に繋がる新たな連携模索 ウ 生徒、OB、教員が一体となった地域連携を進める(例えば、枝垂れ桜の一般公開) ・創立80周年に向けての取組を進める (2) 国際交流を積極的に推進し、英語圏への語学研修を引続き実施する。加えてアジア圏への異文化研修や可能な限り海外修学旅行をすすめる。 ・専門コース制の導入により英語と理数系科目を強化し、学校全体の学力の底上げを図る。 ・外部講師による希望生徒向け英検対策講座を導入することで、より英語の力を向上させる。 (3) HPで生徒の活動や地域連携事業の取り組みなどを公開していく。また、中学校訪問や学校説明会を開催して広報を積極的に行う。	(1) ア 生徒アンケート実施し満足度85%以上維持(平成27年度85%) ・学校教育自己診断における関連項目での肯定的回答65%以上(平成27年度64%) イ 生徒アンケート実施(満足度85%以上を維持) ウ 生徒アンケート実施し満足度85%以上を維持(平成27年度86%) ・進捗状況による (2) 海外語学・異文化研修、海外修学旅行をすすめる。 ・英検の校内実施とともに英検準2級以上の資格取得者を20%以上増加させる。 (3) HPを月に5回以上更新する。学校説明会参加者数等による。	(1) ア 多方面にわたり様々な連携交流を行ってきた。生徒アンケート実施し満足度90%以上。(◎) ・学校教育自己診断における関連項目での肯定的回答74.1%で10%向上。(◎) イ 例年に引き続き各大学との連携を継続し生徒への支援を頂いている。生徒アンケート結果満足度90%以上。(◎) ウ 生徒アンケート結果満足度90%以上。(◎) ・3月段階で7回のオール桜塚高校体制による80周年記念事業実行委員会を開催し、鋭意準備を進めている。(◎) (2) 今年度はベルギーと中国から長期留学生を、ウズベキスタン、セルビアからは短期留学生を受け入れる等国際交流に努めた。また、1月に台湾への修学旅行、3月にはアメリカへの語学研修と韓国への異文化理解研修を実施予定である。(◎) ・英検準2級以上の取得者数は334名で前年度比約46%増で約1.49倍である。(◎) (3) 今年度4月からHPを新しくして、より見やすくした。HPを平均して月に7回以上更新。学校説明会延べ15回行い、参加者数は保護者・生徒を合わせて1500人を超えた。(◎)

府立桜塚高等学校

<p>4 学校の組織力の向上と活性化</p>	<p>(1) PDCA サイクルによる学校経営の確立 ア 本校の課題に対する基本的な方向性を確立する イ 内規等の整理・改善 ウ 専門教科・科目の研究を行う エ 様々な分掌・委員会の活性化 オ 不祥事発生の未然防止を図る</p>	<p>ア 運営委員会のメンバーはそれぞれの所管する組織の立場にこだわらず、常に学校全体の立場から意見交換を行い、本校の課題に対する基本的な方向性を確立することに寄与する。 イ 学校運営の基盤となる種々の内規等の整理・改善を引き続き行う。 ウ 専門コースに新しく設置する専門教科・科目の研究を深め、シラバスの更なる充実に努める。 エ 様々な分掌・委員会の活性化に努め、活動を活発に行う。学校の様々な状況によっては、必要に応じてスクラップ・アンド・ビルドする。 オ 教職員の服務規律の更なる徹底の為に、校内研修を実施し問題意識を共有する。</p>	<p>ア 運営委員会のメンバーの学校経営計画実現に向けて寄与する度合いと教員向け学校教育自己診断関連項目の肯定率3%向上(平成27年度57%) イ 内規等の整理と改善をできるだけ進める。 ウ 専門教科・科目のシラバスの充実に努める。 エ 必要に応じてスクラップ・アンド・ビルドする。 オ 校内研修において班別討議を継続実施する。</p>	<p>ア 運営委員会のメンバーは学校経営計画実現に向けて常に学校全体の立場から意見交換を行い、真摯に尽力している。教員向け学校教育自己診断関連項目の肯定率5.4%向上(◎) イ 内規等の整理・改善の集大成として新たな内規集を完成させた。(◎) ウ 今年度から本格的に専門教科・科目を開講した。常に質の高い授業を心掛け、シラバスの充実に努めている。(○) エ 実態に合わせて、自治会を生活指導部から分離独立させた。過去3年間に行った分掌・委員会の活性化も軌道に乗り、順調である。(◎) オ 定例の職員会議等での注意喚起は勿論のこと、今年度も9月に「不祥事発生の未然防止を図る」為の校内研修で班別討議を実施し、服務規律遵守の意識共有化に努めた。(◎)</p>
----------------------------	--	--	--	---